



企画展

未完の女性哲学者

—西田幾多郎の姪、高橋ふみ—

平成29年3月28日(火) - 10月9日(月・祝)

講演会 「女性哲学者のフロンティア—高橋ふみ—」 哲学館館長・浅見洋
平成29年4月15日(土) 13:30 ~ 15:30 / 哲学ホール ○参加費: 500円 ○申込不要

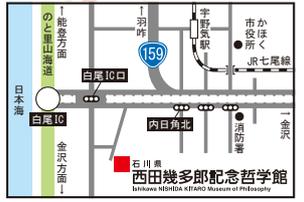
高橋ふみ(1901-1945)は、ようやく女性にも最高学府(帝国大学)への門戸が開かれつつあった大正期の日本で東京女子大学で哲学論文を書き、東北帝国大学を卒業した石川県初の女性学士です。伯父・西田幾多郎と同じ哲学研究者としての道を志し、35歳でドイツへ渡り、ベルリン大学・フライブルク大学でも学びました。学術雑誌での哲学論文の掲載、哲学文献のドイツ語訳などを行い、研究者としてのキャリアを積んでいきますが、病のため道なかばで早世します。女性が学問を続けることへの偏見が根強かった時代に、真の女子高等教育とは何かを問い、提言し続けた「おふみさん」。研究者として、教育者として、自分の道を追及し続けた一人の女性哲学者を紹介します。

 石川県
西田幾多郎記念哲学館
Ishikawa NISHIDA KITARO Museum of Philosophy

〒929-1126 石川県かほく市内日角井1
TEL(076)283-6600 FAX(076)283-6320
URL <http://www.nishidatetsugakukan.org/>
E-mail nishida-museum@city.kahoku.ishikawa.jp

開館時間 ■ 9:00~21:00(入館は20:30まで)
休館日 ■ 月曜日(祝日の場合は翌平日)、ただし5月1日(月)は臨時開館
観覧料 ■ 一般300円 / 高齢者(65歳以上)200円 / 高校生以下無料

交通アクセス
【車利用】北陸自動車道 [金沢東IC]-国道159号線(約20分)
のと里山海道 [白尾IC]-約5分
【JR利用】金沢駅-IRいしかわ鉄道線・七尾線(約25分)-宇野気駅-
徒歩(約20分)-哲学館



企画展

未完の女性哲学者

—西田幾多郎の姪、高橋ふみ—

平成 29 年 3 月 28 日 (火) - 10 月 9 日 (月・祝)

知識は女性の将来の天性をそこなうものではなく、かえって豊かにし、深くするものであることは例をあぐるにいとまないほどであります。欠くる所なき女性は知識的に磨かれることによって、一層その輝きを加へるといふことが出来ましょう。

(ラジオ講演「女子教育における知識の問題について」一九三六年一月六日)



■ギュンタースタール（フライブルク）の下宿の夫人と



■ベルリン日本人学校の授業風景



■東北帝国大学哲学会主催の送別会（中央が留学直前のふみ）



高橋ふみ Fumi Takahashi

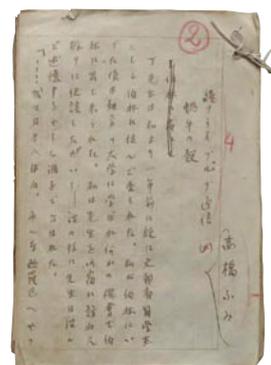
明治 34 (1901) 年—昭和 20 (1945) 年

石川県かほく市木津出身。母は哲学者・西田幾多郎の妹（すみ）。石川県立第一高等女学校、東京女子大学哲学科を卒業後、東北帝国大学法文学科へ入学。石川県女性として初の学士となります。宮城県立女子師範学校、自由学園などで教師を務めたのち、ドイツへ留学。ベルリン大学在学時には時事通信特派員としてベルリンオリンピックの取材も行いました。フライブルク大学ではハイデッガーの演習に参加。伯父・西田幾多郎の哲学論文を独訳するなどしますが、戦争と病のため帰国。ふるさとで療養し幾多郎の死の直後に 43 才の若さで亡くなりました。



■西田幾多郎論文の高橋ふみドイツ語訳「形而上学的立場から見た東西古代の文化形態」

Die morgenländischen und abendländischen Kulturformen in alter Zeit vom metaphysischen Standpunkte aus gesehen



■高橋ふみ「続フライブルク通信」原稿



ウラ面

■西谷啓治から西田幾多郎へ、フライブルクでのふみの様子を知らせる葉書

